

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年4月28日

【事業年度】 第26期（自 2019年2月1日 至 2020年1月31日）

【会社名】 株式会社ジャストプランニング

【英訳名】 JUSTPLANNING INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山本 望

【本店の所在の場所】 東京都大田区西蒲田七丁目35番1号 宝栄ビル

【電話番号】 03(3730)1041

【事務連絡者氏名】 取締役 佐久間 宏

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区西蒲田七丁目35番1号 宝栄ビル

【電話番号】 03(3730)1041

【事務連絡者氏名】 取締役 佐久間 宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
決算年月	2016年 1月	2017年 1月	2018年 1月	2019年 1月	2020年 1月
売上高 (千円)	2,203,556	2,450,258	2,390,665	2,254,092	2,426,749
経常利益 (千円)	511,474	424,015	424,485	297,399	246,496
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	354,798	275,164	281,608	147,686	108,281
包括利益 (千円)	346,912	281,468	291,389	144,272	105,869
純資産額 (千円)	2,758,016	2,963,821	3,180,038	3,136,090	3,152,945
総資産額 (千円)	3,171,136	3,317,332	3,503,772	3,403,674	3,437,151
1株当たり純資産額 (円)	214.05	229.61	245.96	246.38	247.21
1株当たり当期純利益 金額 (円)	28.06	21.75	22.25	11.64	8.52
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	27.89	21.65	22.12	11.53	8.46
自己資本比率 (%)	85.4	87.6	88.9	92.0	91.6
自己資本利益率 (%)	13.8	9.8	9.4	4.7	3.4
株価収益率 (倍)	8.6	11.1	16.3	53.0	55.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	653,108	320,438	390,434	65,064	320,219
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	110,671	386,580	322,631	85,638	96,534
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	73,165	75,406	75,129	188,106	88,144
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,801,981	1,660,443	1,653,106	1,444,425	1,579,965
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	58 (28)	63 (29)	54 (30)	67 (37)	62 (33)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は、就業人員（使用人兼務役員を含む）を表示しております。
3 2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第22期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して1株当たり純資産、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり純利益金額を算定しております。
4 第22期から第24期までにおける数値は、過年度決算訂正を反映した数値であります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
決算年月	2016年 1月	2017年 1月	2018年 1月	2019年 1月	2020年 1月
売上高 (千円)	1,124,557	1,062,012	1,041,292	1,075,522	1,086,981
経常利益 (千円)	458,020	368,187	361,624	287,993	236,707
当期純利益 (千円)	313,393	246,526	249,637	203,208	168,112
資本金 (千円)	401,868	402,022	402,482	407,425	410,515
発行済株式総数 (株)	6,157,300	6,157,800	4,219,346	12,706,338	12,736,338
純資産額 (千円)	2,661,305	2,829,772	3,005,655	3,123,393	3,200,079
総資産額 (千円)	2,894,036	2,932,878	3,116,793	3,248,215	3,309,056
1株当たり純資産額 (円)	209.74	223.03	236.86	245.38	250.91
1株当たり配当額 (円)	18	18	22	7.4	7.4
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	24.79	19.48	19.72	16.02	13.23
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	24.64	19.40	19.61	15.86	13.13
自己資本比率 (%)	91.7	96.2	96.2	96.0	96.6
自己資本利益率 (%)	12.3	9.0	8.6	6.7	5.3
株価収益率 (倍)	9.7	12.4	18.4	38.5	35.5
配当性向 (%)	24.2	30.8	37.2	45.7	56.0
従業員数 (名)	48	53	46	54	50
株主総利回り (%)	109.4	111.8	168.6	284.4	222.3
(比較指標: 配当込み TOPIX) (%)	(103.2)	(112.0)	(138.1)	(120.5)	(132.7)
最高株価 (円)	431 (1,294)	273 (821)	362 (1,087)	1,747 (5,239)	690
最低株価 (円)	221 (665)	199 (597)	227 (682)	303 (909)	445

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員(使用人兼務役員を含む)を表示しております。

3 2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第22期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して1株当たり純資産、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額、株主総利回り、最高株価及び最低株価を算定しております。なお、最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、分割前の株価を括弧内に記載しております。

4 第22期から第24期の1株当たり配当額は、当該株式分割前の株式数を基準としております。

2 【沿革】

年月	事項
1994年3月	有限会社ジャストプランニング（資本金3,000千円）として千葉県習志野市にて設立 コンピュータメーカーからの外食業界向けソフトウェアの受託開発及び販売支援業務を開始。同 時にPOSシステム販売を開始
1995年11月	本社を東京都大田区仲池上二丁目21番3号に移転 POSシステム、売上管理システム等の店舗・本部システムの導入支援業務を開始
1996年3月	POSシステム設計・コンサルタント業務を受託し、システムソリューション事業を開始
1998年6月	株式会社（資本金10,000千円）へ組織変更 システムメンテナンス等の業務アウトソーシング事業を開始
1999年3月	まかせてネットサービス開始（外食業界向け）
1999年8月	ASP（Application Service Provider）事業（まかせてネット）の本格的進出（外食業界向け）
2000年4月	新ASP事業の展開に着手（人材派遣業・宅配事業）
2000年8月	本社を東京都大田区西蒲田七丁目35番1号に移転
2001年2月	簡易版まかせてネット（まかせてネットLight）サービス開始
2001年3月	ASP事業（まかせてネット）機能追加（リアルタイム空室情報・売上照会）を発表
2001年7月	店頭市場（現 東京証券取引所 JASDAQスタンダード）へ上場
2005年2月	物流ソリューションやマーチャндаイズソリューション（コンサルティング、コーディネート） の事業展開を目的として、株式会社サクセスウェイの株式を63.3%取得し子会社とする（現 連 結子会社）
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所（JASDAQ市場）に株式 を上場
2010年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴 い、大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場
2012年8月	クラウド型POSオーダーリングサービス（まかせてタッチ）サービス開始（リアルタイム売上・注 文照会）
2012年9月	店舗専用スマートフォンアプリ（AppCRM）サービス開始（販促支援、顧客管理）
2012年9月	ASP事業まかせてネット進化版（まかせてネットEX）を発表
2012年11月	ASP事業の販売促進を目的として、スマートフォンアプリ（AppCRM）を提供する、株式会社IMCの 株式を35.0%取得し持分法適用の関連会社とする
2013年4月	太陽光発電事業を目的として、株式会社JPパワーを設立し子会社とする（現 連結子会社）
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
2014年8月	クラウド型POSサービス（まかせてタッチ@POS）サービス開始（リアルタイム売上・勤怠管理）
2015年8月	リアルタイム売上送信電卓アプリ「Pre Order POS」サービス開始（リアルタイム売上）
2015年8月	外食業界向け多言語通訳サービス「まかせて通訳」サービス開始
2018年2月	ASP事業-IoTを活用したスマートフォンアプリサービス「Putmenu」の販売運営等を目的として、 プットメニュー株式会社を設立し子会社とする（現 連結子会社）

3 【事業の内容】

当社グループ（株式会社ジャストプランニング及び当社の関係会社）は、株式会社ジャストプランニング（当社）及び連結子会社3社で構成されています。事業内容並びに当社グループの当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

ASP事業

当社は、外食企業向けに、インターネットの通信インフラを利用したアプリケーションソフトウェアの提供と、企業の情報システム関連部門が行っているシステムメンテナンス業務及び運用サポート業務等のアウトソーシング業務とを組み合わせた「ASP事業」を行っております。2018年2月より子会社として puttメニュー株式会社を設立し、IoTを活用したスマートフォンアプリサービス「ASP事業(Putmenu)」の拡販運営を開始しております。

システムソリューション事業

当社は、外食産業向け本部管理システム・店舗システム・分析システム等のアプリケーションソフトウェアの企画、開発、販売及びPOSシステム、オーダーエントリーシステム等のソリューションの提供及び業務コンサルティングを行っております。

物流ソリューション事業

連結子会社の株式会社サクセスウェイは、外食チェーン企業等に対する物流ソリューションやマーチャндаイズソリューション、本部業務代行等のソリューションサービス事業を行っております。

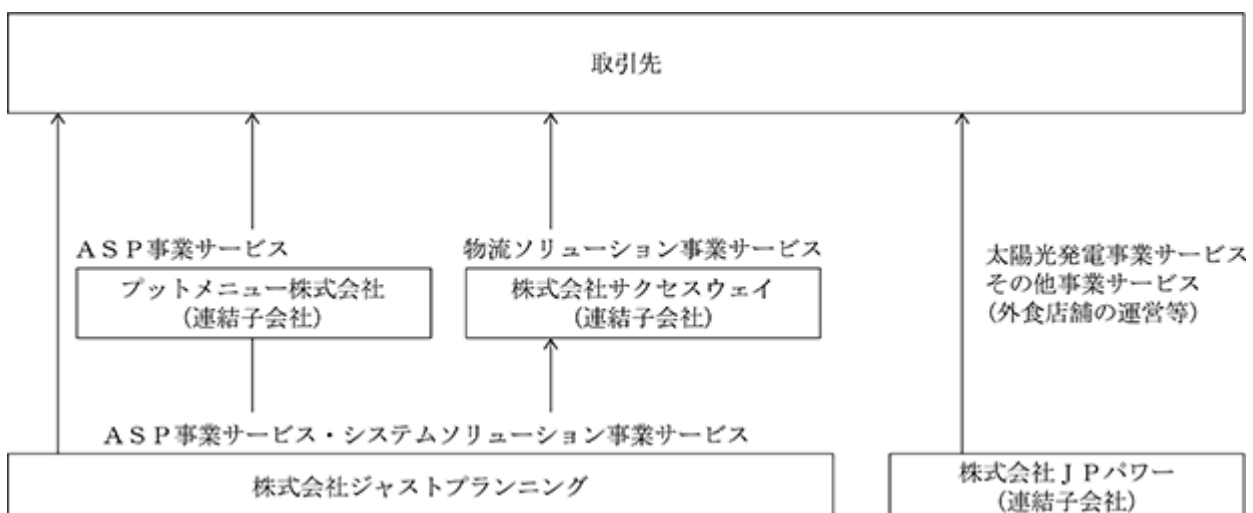
太陽光発電事業

連結子会社の株式会社JPパワーは、自社で保有する太陽光発電設備をもとに、太陽光発電による電力会社への売電を行っております。

その他事業

連結子会社の株式会社JPパワーは、直営の外食店舗を従業員等により運営し、店舗運営ノウハウの社員研修、情報システムの開発、新システムのテストマーケティング等に活用した事業を行っております。

上記の事項について、事業系統図を示すと次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な 事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社サクセスウェイ (注)2	東京都新宿区	30	物流ソリューション事業	100.0	物流ソリューションやマーチャндаイズソリューション(コンサルティング、コーディネート)に関して業務提携を行っております。役員の兼任あり。
(連結子会社) 株式会社JPパワー	東京都大田区	10	太陽光発電事業 その他事業	100.0	太陽光発電事業及び外食店舗の運営等を行っております。役員の兼任あり。
(連結子会社) ブットメニュー株式会社	東京都大田区	10	ASP事業 (Putmenu)	70.0	IoTを活用したスマートフォンアプリサービスの運営等を行っております。役員の兼任あり。

(注) 1 主要な事業の内訳欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 株式会社サクセスウェイについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

売上高	1,144,199 千円
経常利益	12,561 千円
当期純利益	9,118 千円
純資産額	215,972 千円
総資産額	378,491 千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年1月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ASP事業	44(-)
システムソリューション事業	-(-)
物流ソリューション事業	8(-)
太陽光発電事業	-(-)
その他事業	4(33)
全社(共通)	6(-)
合計	62(33)

- (注) 1 従業員数は就業人員(使用人兼務役員を含む)であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2 システムソリューション事業は、ASP事業の従業員が兼務しております。
3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2020年1月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
50	37	6.8	5,122

セグメントの名称	従業員数(名)
ASP事業	44(-)
システムソリューション事業	-(-)
全社(共通)	6(-)
合計	50(-)

- (注) 1 従業員数は就業人員(使用人兼務役員を含む)であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2 システムソリューション事業は、ASP事業の従業員が兼務しております。
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。なお、使用人兼務役員について、使用人としての給与部分について計算しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係については良好に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループは、ASP事業をアプリケーションソフトウェアの提供のみならず、アウトソーシング業務としてユーザー側のシステム作業も運用サービスとして行うことにより、安定したシステム稼働とユーザー側のシステム活用に関する問題の解決に向け、アウトソーシング業務に対する信頼感を高めることを目的にサービスを行ってまいります。

当社グループが行っているASP事業「まかせてネット」、システムソリューション事業を取り巻く技術革新の進歩は速く、特にインターネット関連業界に関しましては参入企業も多く、ユーザーも急速に拡大の一途をたどっており、それに併せて新技術や新サービス・商品が普及しております。当社グループにおきましては、新技術の積極的な投入を行い、適時にユーザーニーズを取り入れた独自のシステムを構築していき、外部との技術提携等の企業間の情報交換も積極的に行っていく方針であります。

なお、将来に関する事項については、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、リスク発生の回避に最大限の注意を払うと共に、発生した場合には影響を最小限に抑えるべく可及的速やかな対応に努めております。

なお、以下記載のうち将来に関するリスク事項については、有価証券報告書提出日現在において、当社が経営上の重要なリスク管理の対象として認識しているものであります。

(1) 技術変化への対応力

当社グループが行っているASP事業「まかせてネット」、システムソリューション事業を取り巻く技術革新の進歩は速く、特にインターネット関連業界に関しましては、昨今、参入企業も多く、ユーザーも急速に拡大の一途をたどっており、それに併せて新技術や新サービス・商品が普及しております。当社におきましては、新技術の積極的な投入を行い、適時にユーザーニーズを取り入れた独自のシステムを構築しております。この分野における技術の変化は急激であり、当社グループの成功はこうした技術変化への対応力を必要としております。

(2) 情報管理分野の特有のリスク

当社グループはITへの依存度が高く、ソフト及びハードの欠陥、コンピューター・ウィルス、及び社内データベースの問題（顧客関連情報の漏洩、改ざん、消失等）が業務に及ぼすリスクは高まっております。当社はコンピューター・ウィルスの検知、及び除去用のファイアウォールの構築、アンチウィルス・ソフトの利用等、様々な予防策をとっておりますが、こうした問題の影響を完全に回避する、又は軽減できない恐れがあります。これらは当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 個人情報保護

当社グループでは、ASP事業をアプリケーションソフトウェアの提供のみならず、アウトソーシング業務としてユーザー側のシステム作業も運用サービスとして行っており、顧客企業の従業員の勤怠管理等の個人情報を取り扱っております。個人情報の漏洩が社会問題となっておりますように、当社グループにおいてもそのような事態が発生した場合には、損害賠償や信用失墜といった有形無形の損害を被る可能性があります。

(4) システムダウンについて

当社グループが行っているASP事業「まかせてネット」は、コンピュータシステムを結ぶ通信ネットワークに依存しており、自然災害や事故等によって、通信ネットワークが切断された場合には、サービスの提供は一時的に困難となります。また、サーバーが作動不能に陥ったり、外部からの不正な手段によるコンピュータ内への侵入等の犯罪あるいは役職員の過誤等によって、重要なデータを消去又は不正に入手される可能性もあります。

これらの障害が発生した場合には、当社グループのシステム自体への信頼性低下を招く可能性や損害賠償請求等が生じる可能性があります。

(5) 人材育成

当社グループが継続的成長を成し遂げていくために、人材はその重要な要素のひとつとして挙げられます。優秀な人材の獲得及びその育成が目論見通り進まなかった場合には、当社グループの成長を律速する要因となる可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

（1）経営成績等の状況の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続く中、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、世界経済の不確実性は高く、米中の貿易摩擦や英国のEU離脱を巡る動向、また新型コロナウイルスの感染拡大により世界経済に係る先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社では、会社設立以来、外食業界を中心としたシステムのコンサルティング及び開発を行ってまいりました。IT情報システム環境は激しい技術革新の渦中におかれており、外食業界においてもインターネットを活用した新しいビジネスモデルの構築や効果的なデータの活用方法が求められております。

このような環境の中で、当社ではASP（Application Service Provider）によるアウトソーシング事業とインターネットを活用したシステムソリューション事業に取り組んでまいりました。

昨今のインターネット環境におきましては、タブレット端末やスマートフォン等のデバイスの進化や急速な普及により、外食産業においても様々なビジネスシーンで活用されるケースが認められております。

このような背景を踏まえ、ASP事業「まかせてネット」をシリーズ化し、「まかせてネット」の進化版「まかせてネットEX」及び、クラウド型POSオーダーリングサービス「まかせてタッチ」の拡販・運営をいたしております。

財政状態及び経営成績の状況

（資産の部）

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して33,477千円増加し、3,437,151千円となりました。うち流動資産は118,791千円減少し2,460,803千円となり、固定資産は152,269千円増加し976,348千円となりました。

イ．流動資産

流動資産の減少118,791千円の主な要因は、現金及び預金の増加135,540千円、短期貸付金の減少303,313千円、その他流動資産の減少3,596千円、貸倒引当金の減少68,985千円等によるものです。

ロ．固定資産

固定資産の増加152,269千円の要因は、機械装置の減少59,484千円、ソフトウェアの増加45,126千円、投資有価証券の減少9,087千円、長期貸付金の増加297,913千円、その他投資その他の資産の増加7,035千円等によるものです。

（負債の部）

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して16,622千円増加し、284,206千円となりました。うち、流動負債は16,460千円増加し277,180千円となり、固定負債は161千円増加し7,026千円となりました。

イ．流動負債

流動負債の増加16,460千円の主な要因は、買掛金の減少1,414千円、未払法人税等の減少5,467千円、その他の増加23,542千円等によるものです。

ロ．固定負債

固定負債の増加161千円の要因は、資産除去債務の増加161千円によるものです。

（純資産の部）

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末と比較して16,854千円増加し、3,152,945千円となりました。主な増減は、利益剰余金の増加14,256千円、資本金の増加3,090千円、資本剰余金の増加3,090千円等によるものです。

この結果、当連結会計年度末の流動資産の構成比は71.6%（前連結会計年度比4.2%減）、固定資産の構成比は28.4%（同4.2%増）、流動負債の構成比は8.1%（同0.4%増）となっております。

当連結会計年度の売上高は、2,426,749千円（対前連結会計年度比7.7%増）となりました。ASP事業売上が878,972千円、システムのコンサルティング及び開発、その他ソリューションサービスに関連した事業を加えたシステムソリューション事業の売上が197,082千円、物流ソリューション事業の売上が1,121,389千円、太陽光発電所の運営事業である太陽光発電事業の売上は107,318千円、直営の外食店舗の運営事業であるその他事業の売上は121,986千円となりました。

一方、売上原価は、消費税軽減税率対応に伴うシステムメンテナンス、システムセキュリティ対策等により、1,549,127千円（同13.7%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人員の増加、広告宣伝及び販売促進費用の増加に伴い、629,889千円（同3.7%増）となり、この結果、連結営業利益247,732千円（同12.9%減）、連結経常利益246,496千円（同17.1%減）となりました。また、貸付金に対する貸倒引当金繰入額57,020千円を特別損失として計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は、108,281千円（同26.7%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

ASP事業

当社グループにおけるASP事業は外食業界向けに「まかせてネット」というサービス名で、本格的には1999年8月よりサービスを行っております。各外食店舗にPOSシステム・出退勤システム・食材発注システム等の店舗システムで発生した情報を、当社ASPセンターで受信し、各企業データベースへと展開します。当社ASPセンターでは、売上管理・勤怠管理・発注管理等の本部システムを稼働させ、外食本部からはインターネット経由で当社ASPセンターにアクセスすることにより、それらの本部システムを利用する事が出来る仕組みとなっております。また、本部システムの利用に伴い発生するデータの更新等のメンテナンス業務や、店舗システムのリモートサポート業務等の付帯業務をアウトソーシング業務として代行していることが特徴としてあげられます。これによりユーザーはシステムの利用に専念でき、管理コストも抑えることが可能となります。

ASP事業(まかせてネット)におきましては、外食業界に特化したサービスとして、ASP導入時に生じる動作環境の設定、利用方法の説明等といった導入を支援することから発生する導入支援売上と、提供するアプリケーションソフトウェアのメニューをユーザー店舗単位で決定し、毎月メニューに応じた月額利用料金を導入店舗数に応じてユーザーに請求する継続的な収入であるASP利用料売上から構成されています。また、外食産業のみならず、新業態への売上管理・勤怠管理・発注管理等のASPシステムを展開しております。

また、「まかせてネット」をシリーズ化し、「まかせてネットEX」、「まかせてタッチ」の拡販・運営をいたしております。

「まかせてネットEX」では、マルチデバイス、マルチOS、マルチブラウザに対応しており、様々な環境において利用が可能となり、システムのカスタマイズ性を高めました。

「まかせてタッチ」では、従来の専用のハンディターミナルに代わって、スマートフォン、タブレット端末等を飲食店舗内の注文端末として活用し、お客様から受けた注文について、厨房のプリンタへの調理指示、お客様の会計、売上情報の管理等を行います。更に、リアルタイムでの店舗の売上・注文情報の確認を可能としました。

2018年2月には、ASP事業内において新たに「Putmenu」というサービスを展開するため、プットメニュー株式会社を当社連結子会社として設立いたしました。「Putmenu」はIoTを活用したサービスで、スマートフォンアプリ「Putmenu」を使うことで商品の注文と決済をオンラインで実現し業務を効率化するサービスとなっております。

当連結会計年度におけるASP事業売上は、対面する外食事業における既存店舗の統廃合等により、実績稼働店舗数が当初予想を下回りました結果、ASP事業の売上は878,972千円（対前連結会計年度比1.6%減）、セグメント利益は602,042千円（同3.7%減）となりました。

システムソリューション事業

1994年3月の設立以来、当社グループは外食業界向けの店舗システム及び本部システム(POSシステム、出退勤システム、食材発注システム)等の業務システム構築全般にソフトウェアの企画・開発・販売を行ってまいりました。システムソリューション事業の業務内容は、外食業界の業務システムにおけるソフトウェア受託開発、POSシステム導入におけるシステム設定作業やシステム運用・業務コンサルティングやそれに伴うハードウェア導入、当社POSシステムユーザーに対する消耗品販売等を行っているPOSシステムソリューションから構成されております。

当連結会計年度におけるシステムソリューション事業売上は、197,082千円（対前連結会計年度比19.3%増）、セグメント利益は32,661千円（同5.5%減）となりました。

物流ソリューション事業

当社グループでは、外食チェーン企業等に対する物流ソリューション（3PL：サードパーティロジスティクス=企業の流通機能全般を一括して請け負う）やマーチャндаイズソリューション（コンサルティング、コーディネート）、本部業務代行（伝票処理、受発注代行、商品管理）等のソリューションサービス事業を展開しております。

当連結会計年度における物流ソリューション事業の売上は、1,121,389千円（対前連結会計年度比16.3%増）、セグメント利益は106,005千円（同3.7%増）となりました。

太陽光発電事業

当社グループでは、2015年2月より栃木県那須塩原市、栃木県那須町にて2拠点、2016年2月より宮城県仙台市にて1拠点において、太陽光発電設備による電力会社への売電事業を行っております。

当連結会計年度における太陽光発電事業の売上は107,318千円(対前連結会計年度比0.1%減)、セグメント利益は39,298千円(同27.5%増)となりました。

その他事業

当社グループでは、2009年8月より、直営の外食店舗を社員により営業を行っております。社員による運営により、店舗運営ノウハウの社員研修、情報システム開発、新システムのテストマーケティング等に活用しております。

当連結会計年度におけるその他事業の売上は、121,986千円（対前連結会計年度比1.3%減）、セグメント利益は97,613千円（同1.3%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、現金及び現金同等物(以下「資金」という)の当期末残高は、前連結会計年度末に比べ135,540千円増加し、1,579,965千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動の結果得られた資金は320,219千円となりました。これは、主として税金等調整前当期純利益189,476千円、減価償却費119,114千円、貸倒引当金の増減額56,148千円、法人税等の支払額93,499千円となったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は96,534千円となりました。これは、主として有形固定資産の取得による支出7,125千円、無形固定資産の取得による支出90,375千円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における、財務活動の結果使用した資金は88,144千円となりました。これは、主として配当金の支払による支出93,154千円、新株予約権行使による収入5,010千円等によるものです。

生産、受注及び販売の状況

イ. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、以下の通りであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)	前年同期比(%)
ASP事業	(千円)	878,972	1.6
システムソリューション事業	(千円)	197,082	19.3
物流ソリューション事業	(千円)	1,121,389	16.3
太陽光発電事業	(千円)	107,318	0.1
その他	(千円)	121,986	1.3
合計	(千円)	2,426,749	7.7

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

ロ. 受注実績

該当事項はありません。

ハ. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、以下の通りであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)	前年同期比(%)
ASP事業	(千円)	878,972	1.6
システムソリューション事業	(千円)	197,082	19.3
物流ソリューション事業	(千円)	1,121,389	16.3
太陽光発電事業	(千円)	107,318	0.1
その他	(千円)	121,986	1.3
合計	(千円)	2,426,749	7.7

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成におきましては、経営者による会計方針の選択適用、合理的な見積りが必要とされます。当該見積りにあたりましては、当社グループにおける過去の実績率等を踏まえ合理的に判断しておりますが、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合があります。当社グループが採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況」に記載しておりますが、財務状態及び経営成績に特に重要な影響を与える会計方針と見積りは、以下のとおりと考えております。

イ. 収益の認識について

当社グループの売上高は、ASP事業につきましては、役務提供サービスが提供された時点で計上され、システム受託開発事業のシステム及びシステム機器の販売につきましては、検収時点において計上しております。

ロ. 貸倒引当金について

当社グループは、顧客または取引先の支払不能時に発生する損失の見積額について、貸倒引当金を計上しております。貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ハ. 投資の減損について

当社グループは、投資有価証券を所有しており、公開会社の時価のあるものと、非公開会社の時価のないものがあります。時価のあるものについては、連結会計年度末日の時価が50%以上取得価額を下回った場合に減損を行っております。また、時価のないものについては、状況に応じ個々の企業において時価が「著しく下落した」と判断するための合理的な基準を設け、当該基準に基づき回復可能性の判定をしております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析の検討内容

(売上高)

売上高につきましては、ASP事業セグメントの売上高は、当連結会計年度では878,972千円(対前連結会計年度比1.6%減)となりました。

当連結会計年度ではASP事業におきまして主要取引先1社との取引が縮小しましたが、新規取引先の獲得等により計画値に対して微減で推移いたしました。また2018年2月に puttメニュー株式会社を当社連結子会社として設立し、スマートフォンアプリ「Putmenu」を使うことで商品の注文と決済をオンラインで実現し業務を効率化するサービスを開始いたしました。「Putmenu」は、当社の外食産業向けのASPサービスのみならず、様々な分野での積極的展開を進めていますが、当連結会計年度ではテスト導入の段階にありました。

システムソリューション事業セグメントの売上高は、軽減税率対応によるPOSシステム機器の入替や開発需要等の増加により、当連結会計年度では197,082千円(対前連結会計年度比19.3%増)となりました。

物流ソリューション事業セグメントの売上高は、1,121,389千円(対前連結会計年度比16.3%増)となりました。前連結会計年度において、主要取引先の1社との取引が停止したことを踏まえて、売上拡大を最優先事項として取り組み、物流業務及び物販での売上拡大をいたしました。このような結果、当連結会計年度の売上高は、2,426,749千円(対前連結会計年度比7.7%増)となりました。

(営業利益)

営業利益につきましては、前連結会計年度の営業利益と比較して36,722千円減少して、連結営業利益247,732千円(同12.9%減)となりました。

ASP事業セグメントにおけるスマートフォンアプリ「Putmenu」の事業拡大のため、営業及びシステム開発要員の人員を強化し、人件費が12,527千円、システム投資関連費等が1,313千円、広告宣伝・販売促進費が6,647千円増加いたしました。

(特別損失)

2018年8月に判明した当社元代表取締役鈴木崇宏による不正行為に関連した損害賠償金につきまして、2020年1月31日現在、当社連結子会社株式会社JPパワーは元当社代表取締役鈴木崇宏氏に対して総額297,913千円の損害賠償金についての準金銭消費貸借契約書を締結しております。損害賠償契約において、株式会社JPパワーは鈴木氏の保有する当社株式368,400株について担保権を設定しておりますが、2020年1月31日時点における当社株価に基づく担保権の金額が損害賠償請求権の金額を下回ったため、担保不足額について、貸倒引当金繰入額57,020千円を特別損失として計上いたしました。

このような結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計期間と比較して39,404千円減少して、108,281千円(同26.7%減)となりました。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

資本の財源及び資金の流動性につきましては、事業運営上必要な流動性と投資のための資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況につきましては、(2)キャッシュ・フローの状況をご参照ください。当社グループでは、運転資金は原則として営業活動によるキャッシュ・フローにより賄われており、翌連結会計年度のキャッシュ・フローも同水準になる見込みであります。ASP事業セグメントにおけるスマートフォンアプリ「Putmenu」の事業拡大に伴い、積極的な事業投資を計画していますが、無借金経営を継続し、手元現金及び現金同等物1,579,965千円を利用していく方針であります。

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断する為の客観的な指標等

当社グループは、売上高及び営業利益の継続的成長、ならびに企業価値向上を経営方針、経営戦略、経営上の目標としているため、売上高及び営業利益を重要な指標として位置付けております。

4 【経営上の重要な契約等】

特記すべき経営上の重要な契約等はありません。

5 【研究開発活動】

インターネット関連技術や次世代携帯端末技術及びセキュリティに関する技術革命に対応して、ASP事業(まかせてネット)の機能を拡張すべく、これら新技術等への調査研究を行っております。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、32,644千円となっております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資額は97,501千円で、その主なものは、ソフトウェア90,375千円、その他事業における店舗用器具備品457千円、サーバー及びパソコン等設備6,668千円であります。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(2020年1月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備 の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物	車両運搬具	工具、器具及び 備品	ソフトウェア	合計	
本社 (東京都大田区)	ASP事業 システムソリューション事業	全業務	1,940	0	10,970	186,251	199,161	50

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 本社事務所は全て賃借中のものであります。なお、上記建物の内訳は、主として事務所内装設備であります。
3 従業員は就業人員(使用人兼務役員を含む)であります。

(2) 国内子会社

(2020年1月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械及び 装置	車両 運搬具	工具、器具 及び備品	合計	
株式会社 サクセスウェイ	本社 (東京都新宿区)	物流ソリューション事業	全業務	152	-	-	236	388	8
株式会社JPパワー	本社 (東京都大田区)	太陽光発電事業 その他事業	全業務	35,999	444,621	-	7,425	488,046	4

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員は就業人員(使用人兼務役員を含む)であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	72,000,000
計	72,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年4月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,736,338	12,736,338	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	12,736,338	12,736,338		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2020年4月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項」の(ストック・オプション等関係)に記載しております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年2月1日 - 2016年1月31日(注)1	5,000	6,157,300	1,535	401,868	1,535	259,601
2016年2月1日 - 2017年1月31日(注)1	500	6,157,800	153	402,022	153	259,755
2017年2月1日 - 2018年1月31日(注)1	1,500	6,159,300	460	402,482	460	260,215
2017年9月1日(注)2	1,939,954	4,219,346	-	402,482	-	260,215
2018年2月1日 - 2019年1月31日(注)1	16,100	4,235,446	4,942	407,425	4,942	265,158
2018年8月1日(注)3	8,470,892	12,706,338	-	407,425	-	265,158
2019年2月1日 - 2020年1月31日(注)1	30,000	12,736,338	3,090	410,515	3,090	268,248

(注) 1 新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加であります。

2 自己株式の消却による減少であります。

3 株式分割(1:3)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2020年1月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	4	26	27	16	6	3,997	4,076	-
所有株式数(単元)	-	871	4,369	60,929	572	49	60,535	127,325	3,838
所有株式数の割合(%)	-	0.68	3.43	47.85	0.45	0.04	47.54	100.00	-

(6) 【大株主の状況】

2020年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社MYホールディングス	東京都大田区羽田1丁目13-1	5,635,500	44.24
鈴木 崇宏	東京都港区	368,400	2.89
株式会社オービック	東京都中央区京橋2丁目4-15	331,200	2.60
岡本 茂	埼玉県さいたま市大宮区	221,400	1.73
佐久間 宏	東京都武蔵野市	180,000	1.41
吉田 雅年	東京都大田区	162,000	1.27
柳津 博之	東京都大田区	144,600	1.13
山本 望	千葉県船橋市	139,000	1.09
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	126,700	0.99
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1丁目14-1	69,800	0.54
計	-	7,378,600	57.93

(注) 上記のほか当社所有の自己株式246株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,732,300	127,323	同上
単元未満株式	普通株式 3,838	-	同上
発行済株式総数	12,736,338	-	-
総株主の議決権	-	127,323	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式のうち46株は自己株式であります。

【自己株式等】

2020年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社ジャストプランニング	東京都大田区西蒲田7-35-1	200	-	200	0.0
計	-	200	-	200	0.0

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	246	-	246	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年4月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施していくこととしております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。なお、当社は、毎年7月31日を基準として、取締役会の決議をもって、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期につきましてはこの基本方針に基づき、2020年4月28日当社株主総会決議により、1株当たり7円40銭の利益配当を実施することといたしました。なお、この場合の配当総額は94,247千円となります。

内部留保資金につきましては、主として人材確保、システム研究開発、サーバー等のシステム設備投資および有力企業との提携を行うための投融資に充当する方針であります。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

企業を取り巻く経営環境が大きく変化するなか、その変化に迅速に対応する経営体制の確立、並びに経営の健全性、透明性の確立は、コーポレート・ガバナンスの充実には必要不可欠と認識しております。当社は、企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任を全うすることを経営上の重要な課題の一つとして位置づけております。そのために、現在の株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人など、法律上の機能制度を一層強化・改善・整備しながら、コーポレート・ガバナンスを充実させていきたいと考えております。また、迅速かつ正確な情報開示に努めるとともに、経営の透明性を高めてまいります。

企業統治の体制

イ 企業統治体制の概要

() 会社の機関の説明

当社は監査役会設置会社であります。監査役3名のうち2名が社外監査役であります。

() 会社の機関の内容及び業務執行・監査役監査の仕組み

当社は健全な経営を推進するために、各事業部門に責任者として取締役を置き、各部門の実務を統括して経営の意思決定の迅速化と業務執行の責任の明確化を図っております。当社の取締役会は取締役6名、社外取締役1名で構成され、法定の決議事項に加えて、各事業部門の業務執行及び法令の遵守の状況について、毎月の取締役会にて適宜報告され監視されています。監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名で取締役の業務を監督しております。取締役会の他、個別の事業戦略等について、部門長を含めて議論することが望ましいと判断される場合には、取締役、各部門長等で構成される経営会議を必要に応じて開催しております。

その他、コンプライアンス体制の強化と事業上のリスクに対応するため、情報管理委員会及び法令・コンプライアンス委員会を設置しております。

(注) 1 社外取締役は、下津弘享の1名です。

2 社外監査役は、山田浩雅、渡辺満雄の2名です。

3 取締役会及び監査役会の構成員の氏名については、後記「役員の状況」のとおりです。

なお、各機関の議長は次のとおりです。

・取締役会：代表取締役社長 山本望

・監査役会：常勤監査役 初木勲

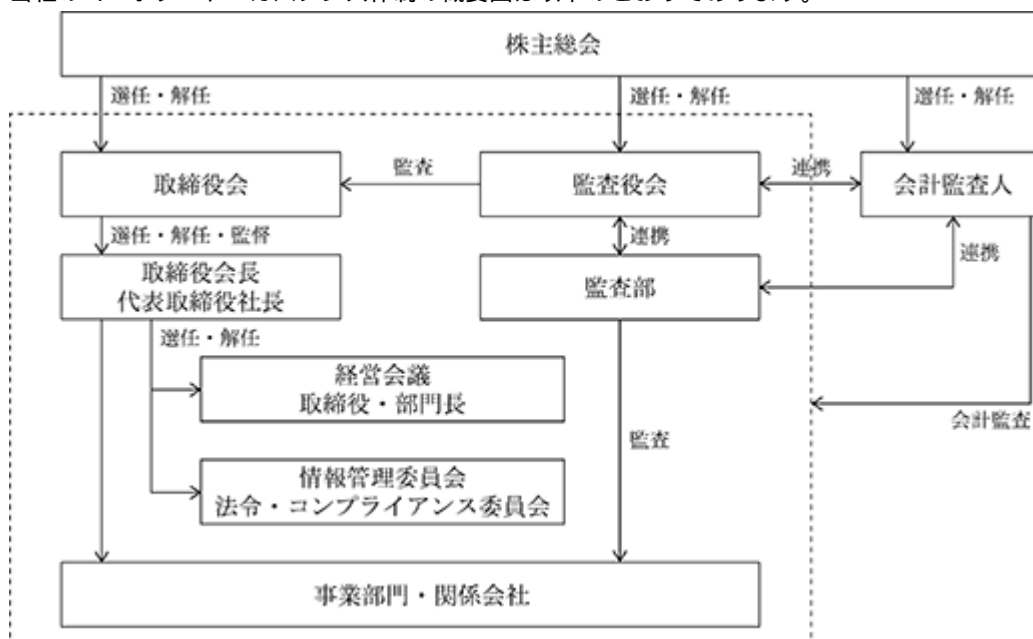
・経営会議：代表取締役社長 山本望

・情報管理委員会及び法令・コンプライアンス委員会：代表取締役社長 山本望

() 企業統治の体制を採用する理由

当社がこのような体制を採用している理由は、取締役会の意思決定及び業務執行に対し、監査役会による監査機能を設けることで、経営の健全性を確保するためであります。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要図は以下のとおりであります。



□ 内部統制システムの整備の状況

当社は、経営の健全性・透明性・迅速性を通じて企業としての社会的責任を果たすため、以下のとおり実効性のある内部統制システムを整備しております。

- a. 当企業集団の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 1. 取締役会は、法令等遵守(以下「コンプライアンス」という。)のための体制を含む内部統制システムの整備方針・計画について決定するとともに、定期的に状況報告を受けております。
 2. 監査役は、独立した立場から、内部統制システムの整備・運用状況を含め、取締役の職務の執行を監査いたします。
 3. コンプライアンス全体を統括する総括責任者及びコンプライアンス担当の配置、コンプライアンスに関連する規程の作成及び整備、研修の実施等により、役員及び従業員等が、それぞれの立場でコンプライアンスを自らの問題としてとらえ業務運営にあたるよう指導いたします。
 4. 当社の事業に適用される法令等を識別し、その内容を関連部署に周知徹底することにより、法的要求事項を遵守する基盤を整備いたします。
 5. 相談・通報体制を設け、役員及び従業員等が、社内においてコンプライアンス違反行為が行われ、また行われようとしていることに気づいたときは、社内及び社外の相談窓口等に通報しなければならないと定め、会社は、通報内容を秘守し、通報者に対して、不利益な扱いを行わないものといたします。
- b. 当企業集団の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令・社内規程に基づき、文書等の保存を行います。また、情報の管理については、情報セキュリティに関するガイドライン、個人情報保護に関する基本方針、さらにコンプライアンス・プログラムの要求事項を、実施し、維持し、及び継続的に改善してまいります。
- c. 当企業集団の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 1. 事業目的と関連した経営に重大な影響を及ぼすリスクをトータルに認識、評価する仕組みを整備するとともに、リスク管理に関連する規程を整備いたします。
 2. リスク管理の実効性を確保するために、研究開発部と管理部、および監査部は連携してリスク状況の監視及びその運用を行うものとします。
 3. 経営に重大な影響を及ぼす不測事態が、発生し又は発生するおそれが生じた場合の体制を事前に整備し、有事の対応を迅速に行うとともに、再発防止策を講じます。
- d. 当企業集団の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 1. 取締役会は定期的に開催し、重要事項の決定及び各取締役の業務執行状況の監督等を行います。
 2. 取締役会への付議議案につきましては、取締役会における審議が十分行われるよう付議される議題に関する資料につきましては事前に全役員に配布され、各取締役会に先立ち十分な準備ができる体制をとるものとしております。
 3. 日常の職務の執行に際しては、組織規程等に基づき権限の委譲が行われ、各レベルの責任者が効率的に業務を遂行できる体制をとるものとしております。

- e. 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
1. 子会社の代表取締役は、当社の取締役会にて、事業内容の定期的な報告と重要案件について協議を行っております。
- f. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
1. 監査役は必要ある場合、業務補助のための監査役スタッフを置くことができるものとし、その人事については、監査役会の同意を必要とし、監査スタッフは業務執行に係る役職を兼務しないものとします。
 2. 監査役スタッフは、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して取締役、使用人の指揮命令を受けないものとします。
- g. 当企業集団の取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に対する体制
1. 当企業集団の取締役及び使用人は、監査役に対して、会社経営及び事業運営上の重要事項並びに職務の執行の状況及び結果について監査役に報告いたします。
 2. 当企業集団の取締役及び使用人は、当企業集団における重大な法令違反、コンプライアンスにおける重大な事実を発見した場合及び報告を受けた場合、遅滞なく監査役に報告いたします。
 3. 当社グループの内部通報システムによる通報状況は、定期的又は監査役の求めに応じて報告いたします。
 4. 会社は、監査役へ報告を行った当社グループの役職員に対し、当該報告を行ったことを理由として不利益な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの役職員に周知徹底いたします。
- h. その他監査役への監査が実効的に行われることを確保するための体制
1. 監査役への職務の効率的な遂行のため、取締役及び使用人は、会社経営及び事業運営上の重要事項並びに職務の執行の状況及び結果について監査役に報告いたします。
 2. 取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは、法令に従い直ちに報告いたします。
 3. 監査役が職務執行について生じる費用の前払い又は償還等の請求をしたときは、当該監査役への職務執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理いたします。
- i. 当企業集団のその他監査役への監査が実効的に行われることを確保するための体制
1. 取締役と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合を行います。
 2. 取締役は、監査役への職務の適切な遂行のため、情報の収集交換が円滑に行えるよう協力いたします。
- j. 当企業集団の反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況
1. 反社会的勢力及び団体に対しては毅然とした態度を貫き、いかなる取引も行ってはならない旨を、役員、社員へ周知徹底しております。
 2. 平素より反社会的勢力及び団体に関する情報収集を図り、万一不当要求等の事態が発生した場合には警察や顧問弁護士と迅速に連絡を取り、速やかに対処できる体制を構築しています。
- k. 当企業集団の財務報告の信頼性を確保するための体制
- 当社及び当社グループの財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築及び運用を整備・推進いたします。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役および社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の員数

当社の取締役は30名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任および解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、およびその決議は累積投票によらない旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会で決議することができる株主総会決議事項

当社は、取締役会の決議をもって、会社法第165条第2項の規定に基づき自己株式の取得を行うことができる旨および会社法第454条第5項の規定に基づき中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

これは、自己株式の取得および中間配当を、経営環境の変化に対応してより機動的に実施できるようにするためであります。

会社とコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

個人情報の保護ならびに企業情報の不正流失を防止するために、システム統括本部にて各種情報の取り扱いをモニタリングし、必要な防止策を講じています。また、グループ会社における管理方式の見直しを行い、当社グループ全体での内部統制の統一に取り組んでいます。さらに、グループ全体の経営の活動や報告を監視し、企業活動の法令違反の有無と潜在的なリスクを検討するため、当社グループの経営者が参加して行われるグループ経営会議を毎月実施しています。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性9名 女性1名（役員のうち女性の比率10%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長	吉田 雅年	1964年6月8日生	1985年4月 日電東芝情報システム株式会社入社 1990年2月 エヌ・アイ・エル株式会社入社 1991年8月 株式会社コム入社 1994年3月 有限会社ジャストプランニング設立 代表取締役社長就任 1998年6月 同社有限会社から株式会社へ組織変 更代表取締役社長就任 1998年10月 有限会社ジャストクリエイイト設立代 表取締役就任 2000年3月 有限会社ジャストクリエイイト清算に 伴い同社代表取締役退任 2003年9月 株式会社イーコンテクト社外取締 役就任 2004年4月 当社代表取締役会長就任 2005年1月 株式会社サクセスウェイ取締役就任 2005年2月 株式会社ダイヨシトラスト取締役就 任 2007年4月 当社代表取締役退任 当社取締役会長就任（現任） 2013年4月 株式会社JPパワー代表取締役社長就 任 2013年4月 株式会社MYホールディングス代表取 締役社長就任（現任） 2018年6月 株式会社JPパワー取締役就任（現 任）	(注) 3	5,797,500
代表取締役社長	山本 望	1965年1月1日生	1985年4月 株式会社システムーズ入社 1986年9月 N&Cソフトウェア株式会社入社 1993年3月 セイコー電子工業株式会社入社 2001年12月 当社入社 2006年4月 当社情報システム部長就任 2007年4月 当社取締役就任 2011年4月 当社取締役副社長就任 2018年2月 プットメニュー株式会社代表取締役 社長就任（現任） 2018年8月 株式会社ジャストプランニング代表 取締役社長就任（現任） 株式会社JPパワー取締役就任（現 任）	(注) 3	139,000
取締役 管理部門担当	佐久間 宏	1959年1月28日生	1983年4月 日本電気株式会社入社 1989年9月 アーサーアンダーセン入社 1991年4月 クーパース&ライブランド入社 1995年9月 スミス・バーニー証券会社入社 1996年7月 ソロモン・ブラザーズ・アジア証券 会社入社 1998年4月 佐久間公認会計士事務所開所（現 業） 2000年5月 当社取締役管理部長就任 2000年12月 当社取締役就任（現任） 2005年2月 株式会社サクセスウェイ監査役就任 （現任） 2005年7月 DAオフィス投資法人（現 大和証券オ フィス投資法人）監督役員就任（現 任） 2013年4月 株式会社JPパワー監査役就任（現 任） 2014年1月 日本ヘルスケア投資法人監督役員 プットメニュー株式会社監査役就任 （現任）	(注) 3	180,000

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 情報システム事業部長	牛 崎 晋 一	1971年11月23日生	1997年4月 2000年11月 2015年2月 2015年4月 2017年10月 2018年10月 2019年5月 2020年4月	株式会社アスキー入社 当社入社 当社情報システム部長就任 当社取締役就任(現任) 当社取締役情報システム事業部長兼 研究開発事業部長就任 当社取締役情報システム事業部長兼 研究開発部担当就任 システム部長就任 情報システム事業部長就任(現任)	(注)3	43,700
取締役 管理部門事業部長 企画部長	神 崎 真由美	1979年1月31日生	1997年4月 1999年6月 2005年7月 2008年3月 2009年3月 2017年4月 2018年4月 2018年5月 2018年6月	都市建設株式会社入社 エムシータバコインターナショナル 株式会社入社 株式会社毎日コミュニケーションズ 入社 株式会社インフォーマート入社 当社入社 当社企画部長就任(現任) 当社取締役就任(現任) 管理部門事業部長就任(現任) 株式会社JPパワー代表取締役社長就 任(現任)	(注)3	7,000
取締役 営業本部長 研究開発部長	酒 井 敬	1979年7月5日生	2003年4月 2010年8月 2014年2月 2015年8月 2019年4月 2019年5月 2020年4月	当社入社 システムサポート部 副部長就任 お客様センター事業部 開発部部長 就任 お客様センター事業部長就任 当社取締役就任(現任) 研究開発部長就任(現任) 営業本部長就任(現任)	(注)3	11,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
社外取締役	下 津 弘 享	1970年12月17日生	1992年4月 株式会社桜庵入社 1994年1月 衆議員議員 小沢鋭仁事務所秘書 1997年2月 株式会社ギガプライズ設立 代表取締役就任 2009年10月 株式会社ギガプライズ取締役就任 2010年2月 株式会社高田屋 代表取締役就任 2012年7月 WELLCOM株式会社 監査役就任 2012年12月 株式会社アドテック 取締役就任 2013年5月 株式会社エッジクルー取締役就任 2013年12月 株式会社ティームエンタテインメント 取締役就任 2015年1月 株式会社パディネット取締役就任 2015年6月 株式会社アドテック(現:株式会社AKIBAホールディングス) 代表取締役就任 株式会社エッジクルー 代表取締役就任 2015年10月 株式会社アドテック 代表取締役社長就任 2015年11月 株式会社AKIBA LABO福岡 代表取締役就任 2016年4月 iconic storage株式会社 取締役就任 2017年1月 株式会社HPCテック 取締役就任(現任) 2017年5月 iconic storage株式会社 代表取締役就任 2017年6月 株式会社エッジクルー 代表取締役就任 2018年5月 公益財団法人高島科学技術振興財団 理事就任(現任) 2018年6月 株式会社アドテック代表取締役就任(現任) 2019年4月 当社取締役就任(現任)	(注) 3	-
常勤監査役	初 木 勲	1968年7月18日生	1987年4月 旭情報サービス株式会社入社 1989年2月 岐村会計事務所入所 1998年9月 アローサービス株式会社入社 2000年9月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	6,000
監査役	山 田 浩 雅	1960年5月20日生	1983年4月 株式会社中央通商入社 1989年1月 エヌアイエル株式会社入社 1991年4月 株式会社コム入社 1995年10月 有限会社栄進経営情報設立(現 株式会社リアルビジョン)代表取締役就任(現任) 2000年12月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	-
監査役	渡 辺 満 雄	1946年9月26日生	1969年4月 株式会社アマンド洋菓子店入社 1969年12月 株式会社紀文入社 1997年9月 有限会社エムアールエス設立 代表取締役 2010年4月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	-
計					6,184,200

(注) 1 取締役 下津弘享は社外取締役であります。

2 監査役 山田浩雅及び渡辺満雄は社外監査役であります。

3 任期は、2020年1月期に係る定時株主総会終結の時から2022年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 任期は、2018年1月期に係る定時株主総会終結の時から2022年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 取締役会長吉田雅年の所有株式数は、同氏の資産管理会社である株式会社MYホールディングスが保有する株式数を含めた実質所有株式数を記載しております。

社外役員の状況

イ 社外取締役及び社外監査役の員数並びに当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

当社の企業統治において、社外監査役の専門的かつ客観的な視点や、意見具申は有用であると考えております。社外監査役の独立性に関する基準や方針は明確には定めておりませんが、当社との人的関係、資本的关系または取引関係などの特別な利害関係がなく、高い見識に基づき当社の経営監視ができる人材を求める方針としております。

当社と社外取締役及び社外監査役との間に特別の利害関係はありません。

社外取締役下津弘享氏は、株式会社HPCテックの取締役、公益財団法人高島科学技術振興財団の理事、株式会社アドテックの代表取締役を兼任しておりますが、当社との間に人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役山田浩雅氏は、株式会社リアルビジョンの代表取締役を兼任しておりますが、当社との間に人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役渡辺満雄氏は、東京証券取引所の定めに基づき同取引所へ独立役員として届け出ております。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役が企業統治において果たす機能及び役割は、経営者としての豊富な知識及び経験等に基づき、より広い視野を持って会社の重要な意思決定に参加し、その決定プロセスにおいて客観的評価を行う等の確かな分析に基づく発言を行い、経営陣に対する実効的な監視監督を担っております。

社外取締役の選任状況に関する考え方については、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が十分に機能を発揮し、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っていると考えております。

社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割は、高い独立性及び専門的な見地から、客観的かつ適切な監視、監督を行うことにより、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っていると考えております。経営の意思決定機能と、取締役及び執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。

社外監査役の選任状況に関する考え方については、当社の現在の監査役は監査機能を十分に発揮し、客観的な立場で適切に監査しており、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っていると考えております。

社外取締役又は社外監査役による監査又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社は、社外監査役が円滑に経営に対する監査と監視を实行できるよう、内部統制部門と連携のもと、必要に応じて資料の提供や事情説明を行う体制をとっております。社外監査役と常勤監査役とは、監査役会において適宜、報告及び意見交換を行っており、取締役会にて重要な意思決定のプロセス等を確認し、意見を述べております。また、会計監査人との相互の連携を図るために、適宜、情報交換及び意見交換をしております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役は3名で、うち1名は常勤監査役であります。各監査役は、各監査役間で定めた監査方針、監査計画等に従い、取締役会その他重要な会議への出席、各取締役や内部監査等からの執行状況聴取を実施しております。また、代表取締役との意見交換の実施や、有限責任 あずさ監査法人与定期的に会合を開催しており、監査方針、監査計画等の確認を行い、会計監査の実施状況について意見交換、情報交換を行うことで、監査の実効性及び効率性の向上につとめております。

内部監査の状況

監査部について、年間内部監査計画を策定し、各部門及び関係会社の業務執行状況について、内部統制にかかる監査、コンプライアンスについて監査します。監査部は、1名で構成されております。内部監査の結果は、取締役会長、代表取締役社長、各担当役員、取締役会に報告されるとともに、監査役会にも報告され、監査役監査との連携を図っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員：公認会計士 中村 宏之

指定有限責任社員 業務執行社員：公認会計士 池田 幸恵

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士7名、その他9名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は会計監査人の選定基準を定め、監査法人の品質管理体制、独立性、専門性、事業内容についての理解及び監査報酬の水準等を総合的に勘案した上で選定しております。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任する方針であります。

上記のほか、会計監査人が適正に監査を遂行することが困難と認められる場合及びその他会計監査人の変更が妥当と判断される場合には、取締役会は監査役会の決定に基づき会計監査人の解任又は不再任に係る議案を株主総会に提出いたします。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	46,000	-	25,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	46,000	-	25,000	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社は、監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針を特に定めておりませんが、監査報酬の適正性について、監査日数、当社の規模及び業務の性質等を考慮し、毎事業年度検討しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした

理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について適切であると判断したためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

取締役の報酬限度額は、2000年3月28日開催の第6期定時株主総会において、年額150,000千円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。当社は役員報酬等の額等の決定方針の決定に関与する委員会等は設置しておらず、各役員の個別の報酬額は、株主総会決議の範囲内で職務責任や業績等を考慮して、取締役会の決議により決定しております。

また、業績連動報酬につきましても、本有価証券報告書提出日現在、業績連動報酬を導入していないため、業績連動報酬と業績連動報酬以外の報酬等の支給割合の決定の方針、業績連動報酬の額の決定の方法、業績連動報酬に係る指標、指標の選択理由、業績連動報酬の額の決定方法、当事業年度の指標の目標及び実績につきましても該当事項はありません。

当事業年度の役員報酬等の額の決定過程における取締役会の活動内容につきましては、当社の業績向上及び企業価値の増大への貢献度、またその役位に応じて報酬の額を算出し、取締役会での協議を経た後、2019年4月25日開催の取締役会の決議に基づき、各取締役の個別の報酬等の額を決定しております。

監査役の報酬限度額は、2000年3月28日開催の第6期定時株主総会において、年額18,000千円以内と決議いただいております。監査役の報酬については、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、監査役の協議により各監査役の報酬を決定しており、2019年4月25日の協議により個別の報酬額を決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	52,200	52,200	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く)	6,914	6,914	-	-	1
社外役員	2,794	2,794	-	-	3

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まれておりません。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬額の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(千円)	対象となる役員 の員数(名)	内容
22,050	3	使用人としての給与であります。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動又は株式にかかる配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を純投資目的である投資の株式とし、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、中長期的な企業価値の向上を実現する観点から、取引先との良好な関係を構築し、事業の円滑な推進を図るために必要と判断する企業の株式を保有しております。中長期的な経済合理性や将来の見通しを検証したうえで保有の合理性について当社取締役会にて審議を行っております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	1	4,438
非上場株式以外の株式	1	12,380

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
日本航空株式会社	4,000	4,000	株主優待目的	無
	12,380	15,856		

(注) 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は、保有目的、経済合理性、取引状況等により検証しております

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年2月1日から2020年1月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年2月1日から2020年1月31日まで)の財務諸表について有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することが出来る体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構が主催する研修会等に積極的に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,044,425	2,179,965
売掛金	280,646	264,431
商品	127	92
原材料	1,537	1,379
短期貸付金	303,313	-
その他	19,685	16,089
貸倒引当金	70,140	1,155
流動資産合計	2,579,595	2,460,803
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	43,654	38,091
機械及び装置(純額)	504,106	444,621
その他(純額)	24,593	18,632
有形固定資産合計	1 572,354	1 501,345
無形固定資産		
ソフトウェア	141,124	186,251
ソフトウェア仮勘定	3,715	7,920
電話加入権	424	424
無形固定資産合計	145,264	194,596
投資その他の資産		
投資有価証券	25,906	16,818
長期貸付金	-	297,913
繰延税金資産	34,594	37,813
その他	114,942	121,977
貸倒引当金	68,983	194,117
投資その他の資産合計	106,459	280,406
固定資産合計	824,078	976,348
資産合計	3,403,674	3,437,151

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	162,404	160,990
未払法人税等	48,025	42,558
賞与引当金	2,300	2,100
その他	47,989	71,531
流動負債合計	260,719	277,180
固定負債		
資産除去債務	6,864	7,026
固定負債合計	6,864	7,026
負債合計	267,583	284,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	407,425	410,515
資本剰余金	218,184	221,274
利益剰余金	2,505,436	2,519,692
自己株式	264	264
株主資本合計	3,130,782	3,151,218
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	289	2,701
その他の包括利益累計額合計	289	2,701
新株予約権	5,597	4,427
純資産合計	3,136,090	3,152,945
負債純資産合計	3,403,674	3,437,151

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月 31日)
売上高	2,254,092	2,426,749
売上原価	1,362,226	1,549,127
売上総利益	891,866	877,621
販売費及び一般管理費	1, 2 607,411	1, 2 629,889
営業利益	284,454	247,732
営業外収益		
受取家賃	480	624
受取利息	4,780	74
受取配当金	440	660
保険解約返戻金	2,042	721
過年度消費税等	3,755	-
還付加算金	-	819
その他	1,546	1,572
営業外収益合計	13,045	4,471
営業外費用		
支払利息	61	65
雑損失	39	30
投資有価証券評価損	-	5,611
営業外費用合計	101	5,707
経常利益	297,399	246,496
特別利益		
受取損害賠償金	3 109,231	-
特別利益合計	109,231	-
特別損失		
特別調査費用	4 92,836	-
貸倒引当金繰入額	5 68,113	5 57,020
特別損失合計	160,950	57,020
税金等調整前当期純利益	245,680	189,476
法人税、住民税及び事業税	98,092	83,610
法人税等調整額	2,901	2,415
法人税等合計	100,993	81,194
当期純利益	144,686	108,281
非支配株主に帰属する当期純損失()	3,000	-
親会社株主に帰属する当期純利益	147,686	108,281

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日)
当期純利益	144,686	108,281
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	413	2,411
その他の包括利益合計	1 413	1 2,411
包括利益	144,272	105,869
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	147,272	105,869
非支配株主に係る包括利益	3,000	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日）

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	402,482	260,215	2,450,575	-	3,113,274	123	123	7,449	59,191	3,180,038
当期変動額										
新株の発行（新株予約権の行使）	4,942	4,942			9,885					9,885
剰余金の配当			92,825		92,825					92,825
親会社株主に帰属する当期純利益			147,686		147,686					147,686
自己株式の取得				264	264					264
自己株式の消却					-					-
連結子会社株式の取得による持分の増減		46,973			46,973					46,973
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-	413	413	1,851	59,191	61,456
当期変動額合計	4,942	42,030	54,861	264	17,507	413	413	1,851	59,191	43,948
当期末残高	407,425	218,184	2,505,436	264	3,130,782	289	289	5,597	-	3,136,090

当連結会計年度（自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日）

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	407,425	218,184	2,505,436	264	3,130,782	289	289	5,597	-	3,136,090
当期変動額										
新株の発行（新株予約権の行使）	3,090	3,090			6,180					6,180
剰余金の配当			94,025		94,025					94,025
親会社株主に帰属する当期純利益			108,281		108,281					108,281
自己株式の取得					-					-
自己株式の消却					-					-
連結子会社株式の取得による持分の増減					-					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-	2,411	2,411	1,170	-	3,581
当期変動額合計	3,090	3,090	14,256	-	20,436	2,411	2,411	1,170	-	16,855
当期末残高	410,515	221,274	2,519,692	264	3,151,218	2,701	2,701	4,427	-	3,152,945

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	245,680	189,476
減価償却費	123,873	119,114
貸倒引当金の増減額(は減少)	68,401	56,148
受取利息及び受取配当金	5,220	734
支払利息	61	65
受取損害賠償金	109,231	-
特別調査費用	92,836	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	5,611
売上債権の増減額(は増加)	38,831	16,215
仕入債務の増減額(は減少)	7,526	1,414
その他	43,569	21,032
小計	326,473	405,514
利息及び配当金の受取額	515	734
利息の支払額	61	65
法人税等の支払額	138,924	93,499
法人税等の還付額	-	7,534
代位弁済による支出	30,102	-
特別調査費用の支払額	92,836	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	65,064	320,219
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,200,000	1,200,000
定期預金の払戻による収入	1,200,000	1,200,000
有形固定資産の取得による支出	22,164	7,125
無形固定資産の取得による支出	55,794	90,375
投資有価証券の取得による支出	10,050	-
長期貸付金の回収による収入	-	5,399
その他	2,369	4,432
投資活動によるキャッシュ・フロー	85,638	96,534
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	200,000
短期借入金の返済による支出	200,000	200,000
配当金の支払額	92,711	93,154
自己株式の取得による支出	264	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	8,033	5,010
非支配株主からの払込みによる収入	3,000	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	106,164	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	188,106	88,144
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	208,681	135,540
現金及び現金同等物の期首残高	1,653,106	1,444,425
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,444,425	1 1,579,965

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

株式会社サクセスウェイ

株式会社JPパワー

ブットメニュー株式会社

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

3 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

商品 総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

原材料 最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）ならびに、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物は、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10 - 15年

構築物 10年

機械及び装置 17年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用に用いるソフトウェアは、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手元現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2023年1月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日。以下、「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」5,195千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」34,594千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
	541,488千円	612,980千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
給与手当	163,280千円	177,161千円
役員報酬	68,618	79,748
旅費交通費	36,072	33,822
通信費	8,799	10,508
広告宣伝費	12,322	10,751
地代家賃	47,873	47,241
減価償却費	14,459	12,864

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
33,890千円	32,644千円

3 受取損害賠償金

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

不正行為により発生した損害賠償金を当社元代表取締役鈴木崇宏に求償した金額を受取損害賠償金として計上しております。

当連結会計年度(自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)

該当事項はありません。

4 特別調査費用

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

当社元代表取締役鈴木崇宏による不正行為に関する調査委員会による調査費用及び過年度決算訂正に伴う監査報酬等を特別調査費用として計上しております。

当連結会計年度(自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)

該当事項はありません。

5 貸倒引当金繰入額

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

不正行為により発生した当社元代表取締役鈴木崇宏に対する求償債権を短期貸付金に計上しており、このうち回収不能見込み額を貸倒引当金として計上しております。

当連結会計年度(自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)

不正行為により発生した当社元代表取締役鈴木崇宏に対する求償債権を長期貸付金に計上しており、このうち回収不能見込み額を貸倒引当金として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	596千円	3,476千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	596	3,476
税効果額	182	1,064
その他有価証券評価差額金	413	2,411
その他の包括利益合計	413	2,411

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	4,219,346	8,486,992	-	12,706,338

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加は、ストック・オプションの権利行使、また2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の株式分割を行ったことによるものであります。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	-	246	-	246

(注) 自己株式の発行済株式総数の増加は、単元未満株式の買取、また2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の株式分割を行ったことによるものであります。

3 新株予約権に関する事項

会社名	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度の増加	当連結会計 年度の減少	当連結 会計年度末	
提出会社	2012年新株予約権第 4回 (注) 2, 3, 4	普通株式	64,600	97,000	16,100	145,500	5,597
連結子会社	-	-	-	-	-	-	-
合計			64,600	97,000	16,100	145,500	5,597

- (注) 1 目的となる株式の数は、権利行使可能数を記載しております。
2 スtock・オプションとしての新株予約権です。
3 2012年新株予約権数の増加は、2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の株式分割を行ったことによるものであります。
4 2012年新株予約権数の減少は、付与対象者の権利行使によるものであります。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年4月25日 定時株主総会	普通株式	92,825	22.0	2018年1月31日	2018年4月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年4月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	94,025	7.4	2019年1月31日	2019年4月26日

当連結会計年度（自 2019年2月1日 至 2020年1月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	12,706,338	30,000	-	12,736,338

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加は、ストック・オプションの権利行使によるものであります。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 (株)
普通株式	246	-	-	246

3 新株予約権等に関する事項

会社名	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度の増加	当連結会計 年度の減少	当連結 会計年度末	
提出会社	2012年新株予約権第 4回 (注) 2, 3	普通株式	145,500	-	30,000	115,500	4,427
連結子会社	-	-	-	-	-	-	-
合計			145,500	-	30,000	115,500	4,427

(注) 1 目的となる株式の数は、権利行使可能数を記載しております。
2 スtock・オプションとしての新株予約権です。
3 2012年新株予約権数の減少は、付与対象者の権利行使によるものであります。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年4月25日 定時株主総会	普通株式	94,025	7.4	2019年1月31日	2019年4月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年4月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	94,247	7.4	2020年1月31日	2020年4月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
現金及び預金	2,044,425千円	2,179,965千円
預入期間3か月超の定期預金	600,000	600,000
計	1,444,425	1,579,965
現金及び現金同等物	1,444,425	1,579,965

(リース取引関係)

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当連結会計年度末現在、当社グループは事業遂行に必要な資金を内部資金で賄える状態にあります。余剰資金は安全性の高い短期的な銀行預金等に限定して運用しております。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行なうとともに、主な取引先の信用状況を適宜把握する体制としております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2カ月以内の支払期日であります。また、手許流動性については、管理部で月次において将来の一定期間の資金収支の見込を作成するとともに、その見込との乖離を随時把握することで流動性リスクを管理しております。

長期貸付金は、当社元代表取締役鈴木崇宏に対する貸付金であります。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に株式であり、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握して管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）をご参照ください。）

前連結会計年度（2019年1月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,044,425	2,044,425	-
(2) 売掛金	280,646		
貸倒引当金（ 1 ）	2,027		
差引	278,619	278,619	-
(3) 短期貸付金	303,313		
貸倒引当金（ 1 ）	68,113		
差引	235,199	235,199	-
(4) 投資有価証券	15,856	15,856	-
資産計	2,574,101	2,574,101	-
(1) 買掛金	162,404	162,404	-
負債計	162,404	162,404	-

（ 1 ） 売掛金及び短期貸付金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

（注1） 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(3) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」をご覧ください。

負 債

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当連結会計年度(2020年1月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,179,965	2,179,965	-
(2) 売掛金	264,431		
貸倒引当金(1)	1,155		
差引	263,276	263,276	-
(3) 投資有価証券	12,380	12,380	-
(4) 長期貸付金	297,913		
貸倒引当金(1)	125,134		
差引	172,779	172,779	-
資産計	2,628,401	2,628,401	-
(1) 買掛金	160,990	160,990	-
負債計	160,990	160,990	-

(1) 売掛金及び長期貸付金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」をご覧ください。

(4) 長期貸付金

これらは担保による回収可能見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額にほぼ等しいことから、当該価額をもって時価としております。

負 債

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前連結会計年度(千円) (2019年1月31日)	当連結会計年度(千円) (2020年1月31日)
非上場株式	10,050	4,438

(注) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年1月31日)

	1年以内(千円)
現金及び預金	2,044,425
売掛金	280,646
短期貸付金	303,313
合計	2,628,385

当連結会計年度(2020年1月31日)

	1年以内(千円)
現金及び預金	2,179,965
売掛金	264,431
合計	2,444,397

(注) 長期貸付金(297,913千円)については、償還予定が明確に確定できないため、上記表には含めていません。

(有価証券関係)

前連結会計年度(2019年1月31日)

1. その他有価証券

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	15,856	16,273	417
	(2) その他	-	-	-
	小計	15,856	16,273	417
合計		15,856	16,273	417

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額10,050千円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

該当事項はありません。

当連結会計年度(2020年1月31日)

1. その他有価証券

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	12,380	16,273	3,893
	(2) その他	-	-	-
	小計	12,380	16,273	3,893
合計		12,380	16,273	3,893

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額4,438千円)については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について5,611千円(その他有価証券の株式5,611千円)減損処理を行っております。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	2012年ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	取締役4名、監査役1名、従業員26名、子会社取締役及び従業員7名
ストック・オプションの種類及び数	普通株式 422,400株
付与日	2012年10月11日
権利確定条件	<p>新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役もしくは、従業員その他これに準ずる地位にあることを要するものとする。</p> <p>ただし、任期満了による退任、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、相続人による新株予約権の行使は認められないものとする。</p> <p>上記のほか、新株予約権の行使の条件は、新株予約権割当契約において定める。</p>
対象勤務期間	定めておりません
権利行使期間	2014年11月1日から2022年1月31日まで

(注) 2013年8月1日付株式分割(1株につき100株の割合)及び、2018年8月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(追加情報)

「第4提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 スtockオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	2012年ストック・オプション
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	145,500
権利確定	-
権利行使	30,000
失効	-
未行使残	115,500

(注) 2013年8月1日付株式分割(1株につき100株の割合)及び、2018年8月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

会社名	2012年ストック・オプション
権利行使価格(円)	167
行使時平均株価(円)	554
付与日における公正な評価単価(円)	38

(注) 2013年8月1日付株式分割(1株につき100株の割合)及び、2018年8月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において新たに付与されたストック・オプションはありません。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	3,441千円	3,005千円
貸倒引当金繰入限度超過額	46,564	65,475
投資有価証券評価損	4,316	6,019
資産除去債務	2,102	2,151
その他有価証券評価差額金	127	1,192
税務上の繰越欠損金 (注) 2	-	17,721
その他	1,133	2,174
繰延税金資産小計	57,685	97,740
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) 2	-	17,721
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	22,878	42,031
評価性引当額小計 (注) 1	22,878	59,753
繰延税金資産合計	34,807	37,987
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	213	174
繰延税金負債合計	213	174
繰延税金資産の純額	34,593	37,813

(注) 1 評価性引当額が36,875千円増加しております。この増加の主な内容は、株式会社JPパワーにおいて貸倒引当金繰入限度超過額に係る評価性引当額を19,153千円、連結子会社ブットメニュー株式会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を17,721千円追加的に認識したことに伴うものであります。

2 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度(2020年1月31日)

	1年以内	1年越 2年以内	2年越 3年以内	3年越 4年以内	4年越 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	-	-	-	-	-	17,721	17,721
評価性引当額	-	-	-	-	-	17,721	17,721
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
法定実効税率	30.86%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.09%	0.12%
住民税均等割等	0.37%	0.48%
評価性引当金の増減	8.56%	12.08%
その他	1.23%	0.45%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.11%	42.85%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

施設用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を合理的に見積り、割引率は主に2.4%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
期首残高	6,706千円	6,864千円
時の経過による調整額	158	161
期末残高	6,864	7,026

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「ASP事業」、「システムソリューション事業」、「物流ソリューション事業」及び「太陽光発電事業」の4つを報告セグメントとしております。

「ASP事業」では、インターネット通信インフラを利用したアプリケーションソフトウェアの提供と、企業の情報システム開発部門が行っているシステムメンテナンス及び運用サポート業務等のアウトソーシング業務を組み合わせた「ASP（アプリケーションサービスプロバイダ）事業」を行っております。

「システムソリューション事業」では、外食産業向け本部管理システム・店舗システム・分析システム等のアプリケーションソフトウェアの企画、開発、販売及びPOSシステム、オーダーエントリーシステム等のソリューションの提供及び業務コンサルティングを行っております。

「物流ソリューション事業」は、外食チェーン企業等に対する物流ソリューションやマーチャндаイズソリューション（コンサルティング・コーディネート）を行っております。

「太陽光発電事業」は、太陽光発電所の運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。

報告セグメントの利益は、連結損益計算書の売上総利益ベースの数値です。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	ASP事業	システム ソリューション 事業	物流 ソリューション 事業	太陽光 発電事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	893,671	165,245	964,205	107,384	2,130,507	123,585	2,254,092	-	2,254,092
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20,389	-	21,765	-	42,155	-	42,155	42,155	-
計	914,061	165,245	985,971	107,384	2,172,662	123,585	2,296,248	42,155	2,254,092
セグメント利益	625,310	34,569	102,231	30,824	792,936	98,929	891,866	607,411	284,454
セグメント資産	232,198	90,057	335,702	808,288	1,466,246	84,313	1,550,560	1,853,114	3,403,674
セグメント負債	7,225	29,472	128,849	937,263	1,102,812	766	1,103,578	835,994	267,583
その他項目									
減価償却費	38,804	-	310	70,480	109,595	7,540	117,135	6,737	123,873
有形固定資産及び 無形固定資産 の増加額	66,584	-	-	-	66,584	14,736	81,320	3,637	84,958

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食店舗事業であります。

2 調整額は、以下の通りであります。

- (1) セグメント利益の調整額 607,411千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額1,853,114千円には、主に各報告セグメントに配分していない全社資産及びセグメント取引の調整が含まれております。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。
- (3) セグメント負債の調整額 835,994千円には、主に各報告セグメントに配分していない全社負債及びセグメント取引の調整が含まれております。全社負債は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る負債等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	ASP事業	システム ソリューション 事業	物流 ソリューション 事業	太陽光 発電事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	878,972	197,082	1,121,389	107,318	2,304,762	121,986	2,426,749	-	2,426,749
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,963	-	22,810	-	40,774	-	40,774	40,774	-
計	896,935	197,082	1,144,199	107,318	2,345,536	121,986	2,467,523	40,774	2,426,749
セグメント利益	602,042	32,661	106,005	39,298	780,008	97,613	877,621	629,889	247,732
セグメント資産	330,803	12,858	378,492	657,902	1,380,055	92,758	1,472,814	1,964,336	3,437,151
セグメント負債	9,506	3,683	162,519	837,263	1,072,973	2,818	1,075,791	791,585	284,206
その他項目									
減価償却費	44,271	-	195	61,914	106,381	6,547	112,929	6,185	119,114
有形固定資産及び 無形固定資産 の増加額	103,893	-	-	-	103,893	457	104,350	449	104,799

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食店舗事業であります。

2 調整額は、以下の通りであります。

- (1) セグメント利益の調整額 629,889千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額1,964,336千円には、主に各報告セグメントに配分していない全社資産及びセグメント取引の調整が含まれております。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。
- (3) セグメント負債の調整額 791,585千円には、主に各報告セグメントに配分していない全社負債及びセグメント取引の調整が含まれております。全社負債は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る負債等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所有している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所有している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前連結会計年度（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年2月1日 至 2020年1月31日）

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	鈴木 崇宏	東京都港区	-	当社代表取締役社長	（被所有） 直接 3.8	代表取締役社長	不正による会社資金流出	7,830 (注)1	流動資産 その他 (未収入金) (注)2	159,069

(注)1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2 当社の元代表取締役社長の不正行為による不正な取引であり、その金額は7,830千円であります。鈴木崇宏は、2018年8月1日に関連当事者のうち役員には該当しなくなったため、期末残高は当該関連当事者でなくなった時点の残高を記載しています。

当連結会計年度（自 2019年2月1日 至 2020年1月31日）

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)		当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)	
1株当たり純資産額	246円38銭	1株当たり純資産額	247円21銭
1株当たり当期純利益	11円64銭	1株当たり当期純利益	8円52銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	11円53銭	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	8円46銭

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当連結会計年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	147,686	108,281
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	147,686	108,281
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式の期中平均株式数(株)	12,684,370	12,710,707
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に 用いられた普通株式増加数の主要な内訳 新株予約権(株)	125,154	91,110
普通株式増加数(株)	125,154	91,110

(注) 2018年8月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が第25期の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	659,672	1,223,438	1,823,654	2,426,749
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	85,668	138,341	193,999	189,476
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益金額(千円)	55,531	90,551	126,942	108,281
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	4.37	7.13	9.99	8.52

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 金額又は1株当たり四半期純 損失金額()(円)	4.37	2.76	2.86	1.47

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年1月31日)	当事業年度 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,660,866	1,876,526
売掛金	1 167,797	1 118,731
商品	46	11
その他	1 105,586	4,596
貸倒引当金	2,027	1,155
流動資産合計	1,932,269	1,998,710
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,590	1,940
車両運搬具	87	0
工具、器具及び備品	13,039	10,970
有形固定資産合計	15,717	12,910
無形固定資産		
ソフトウェア	141,124	186,251
ソフトウェア仮勘定	3,715	7,920
電話加入権	398	398
無形固定資産合計	145,238	194,570
投資その他の資産		
投資有価証券	25,906	16,818
関係会社株式	144,164	144,164
長期貸付金	1 947,000	1 797,000
出資金	100	100
破産更生債権等	219	219
長期前払費用	1,124	670
繰延税金資産	11,840	15,361
敷金及び保証金	11,708	11,708
保険積立金	13,145	16,777
長期未収入金	3,306	1 103,570
貸倒引当金	3,525	3,525
投資その他の資産合計	1,154,989	1,102,865
固定資産合計	1,315,945	1,310,345
資産合計	3,248,215	3,309,056

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年1月31日)	当事業年度 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 36,698	1 8,536
未払金	17,696	18,795
未払費用	11,893	12,965
未払法人税等	39,129	36,632
未払消費税等	5,437	18,760
預り金	4,753	4,109
賞与引当金	2,300	2,100
その他	48	48
流動負債合計	117,957	101,950
固定負債		
資産除去債務	6,864	7,026
固定負債合計	6,864	7,026
負債合計	124,821	108,976
純資産の部		
株主資本		
資本金	407,425	410,515
資本剰余金		
資本準備金	265,158	268,248
資本剰余金合計	265,158	268,248
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,445,766	2,519,853
利益剰余金合計	2,445,766	2,519,853
自己株式	264	264
株主資本合計	3,118,086	3,198,353
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	289	2,701
評価・換算差額等合計	289	2,701
新株予約権	5,597	4,427
純資産合計	3,123,393	3,200,079
負債純資産合計	3,248,215	3,309,056

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月31日)	当事業年度 (自 2019年 2月 1日 至 2020年 1月31日)
売上高	2 1,075,522	2 1,086,981
売上原価	2 417,785	2 457,227
売上総利益	657,737	629,753
販売費及び一般管理費	1 373,026	1 388,323
営業利益	284,711	241,430
営業外収益		
受取利息	72	71
受取配当金	440	660
保険解約返戻金	2,042	-
その他	789	222
営業外収益合計	3,344	953
営業外費用		
支払利息	61	65
投資有価証券評価損	-	5,611
営業外費用合計	61	5,676
経常利益	287,993	236,707
特別利益		
受取損害賠償金	100,263	-
特別利益合計	100,263	-
特別損失		
特別調査費用	92,836	-
特別損失合計	92,836	-
税引前当期純利益	295,420	236,707
法人税、住民税及び事業税	91,374	71,051
法人税等調整額	837	2,456
法人税等合計	92,212	68,594
当期純利益	203,208	168,112

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)		当事業年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
器材費	1	130,722	31.3	164,386	36.0
人件費		121,954	29.2	117,897	25.8
外注費		126,349	30.2	130,637	28.5
経費		38,804	9.3	44,271	9.7
当期総製造費用		417,831	100.0	457,193	100.0
期首商品たな卸高		-		46	
計		417,831		457,239	
期末商品たな卸高		46	417,785	11	457,227
当期売上原価		417,785		457,227	

(注) 1 当社の原価計算は、ソフトウェア受託開発については個別原価計算による実際原価計算、それ以外は総合原価計算による実際原価計算であります。

1 主な内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当事業年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
減価償却費	38,804	44,271

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日）

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金			評価・換算差額等合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計						
当期首残高	402,482	260,215	260,215	2,335,383	2,335,383	-	2,998,082	123	123	7,449	3,005,655
当期変動額											
新株の発行（新株予約権の行使）	4,942	4,942	4,942				9,885				9,885
剰余金の配当				92,825	92,825		92,825				92,825
当期純利益				203,208	203,208		203,208				203,208
自己株式の取得						264	264				264
自己株式の消却							-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							-	413	413	1,851	2,265
当期変動額合計	4,942	4,942	4,942	110,382	110,382	264	120,003	413	413	1,851	117,738
当期末残高	407,425	265,158	265,158	2,445,766	2,445,766	264	3,118,086	289	289	5,597	3,123,393

当事業年度（自 2019年2月1日 至 2020年1月31日）

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金			評価・換算差額等合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計						
当期首残高	407,425	265,158	265,158	2,445,766	2,445,766	264	3,118,086	289	289	5,597	3,123,393
当期変動額											
新株の発行（新株予約権の行使）	3,090	3,090	3,090				6,180				6,180
剰余金の配当				94,025	94,025		94,025				94,025
当期純利益				168,112	168,112		168,112				168,112
自己株式の取得							-				-
自己株式の消却							-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							-	2,411	2,411	1,170	3,581
当期変動額合計	3,090	3,090	3,090	74,087	74,087	-	80,267	2,411	2,411	1,170	76,685
当期末残高	410,515	268,248	268,248	2,519,853	2,519,853	264	3,198,353	2,701	2,701	4,427	3,200,079

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 重要な有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

商品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）ならびに、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物は、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10 - 15年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 4 - 10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用に用いるソフトウェアは、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えて、賞与支給見込額の当会計期間負担額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」4,428千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」11,840千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年1月31日)	当事業年度 (2020年1月31日)
短期金銭債権	101,596千円	1,698千円
短期金銭債務	1,976	2,173
長期金銭債権	947,000	897,263

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当事業年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
給与手当	101,322千円	114,852千円
旅費交通費	28,488	21,933
役員報酬	52,258	61,908
減価償却費	6,608	6,121
研究開発費	33,890	32,644
管理諸費	37,718	41,862
おおよその割合		
販売費	2.4%	2.2%
一般管理費	97.6	97.8

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	当事業年度 (自 2019年2月1日 至 2020年1月31日)
営業取引による取引高		
売上高	20,389千円	17,963千円
仕入高	21,765	22,810

(有価証券関係)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式

区分	前事業年度(千円) (2019年1月31日)	当事業年度(千円) (2020年1月31日)
子会社株式	144,164	144,164

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年1月31日)	当事業年度 (2020年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	2,674千円	2,540千円
貸倒引当金繰入限度超過額	1,700	1,457
投資有価証券評価損	4,316	6,019
資産除去債務	2,102	2,151
その他有価証券評価差額金	127	1,192
その他	1,133	2,174
計	12,053	15,535
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	213	174
計	213	174
繰延税金資産の純額	11,840	15,361

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当連結会計年度 (2020年1月31日)
法定実効税率 (調整)	-	30.62%
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.10%
住民税均等割等	-	0.22%
その他	-	1.96%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	28.98%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位)：千円

区分	資産の種類	期首 帳簿価額	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額
有形固定 資産	建物	2,590	-	-	650	1,940	22,245
	車両運搬具	87	-	-	87	0	792
	工具、器具及び備品	13,039	6,668	0	8,738	10,970	200,431
	計	15,717	6,668	0	9,476	12,910	223,469
無形固定 資産	ソフトウェア	141,124	86,171	-	41,044	186,251	71,140
	ソフトウェア仮勘定	3,715	93,888	89,683	-	7,920	-
	電話加入権	398	-	-	-	398	-
	計	145,238	180,059	-	41,044	194,570	71,140

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	5,552	1,113	1,985	4,680
賞与引当金	2,300	2,100	2,300	2,100

(2) 【主な資産及び負債の内容】

主な資産及び負債の内容については、連結財務諸表を作成しているため省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月1日から1月31日まで
定時株主総会	4月中
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日 7月31日
1単元の株式数	300株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL https://www.justweb.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

- (注) 当社は定款で単元未満株式の権利を以下のように制限しております。
当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
 - (3) 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利
 - (4) 売渡請求をする権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第25期（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日） 2019年4月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年4月25日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第26期第1四半期（自 2019年2月1日 至 2019年4月30日） 2019年6月13日関東財務局長に提出

第26期第2四半期（自 2019年5月1日 至 2019年7月31日） 2019年9月13日関東財務局長に提出

第26期第3四半期（自 2019年8月1日 至 2019年10月31日） 2019年12月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2019年5月7日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年4月28日

株式会社ジャストプランニング
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	村	宏	之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	池	田	幸	恵

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジャストプランニングの2019年2月1日から2020年1月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジャストプランニング及び連結子会社の2020年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ジャストプランニングの2020年1月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ジャストプランニングが2020年1月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年4月28日

株式会社ジャストプランニング
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 村 宏 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 幸 恵

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジャストプランニングの2019年2月1日から2020年1月31日までの第26期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジャストプランニングの2020年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。